

タイトル	<i>Ox-Cart Man</i>				
著者（文・絵）	Donald Hall（文）・Barbara Cooney（絵）				
出版年	1979	出版社	Viking		
翻訳版	『にぐるまひいて』もき かずこ訳、ほるぷ出版、1980年				
総語数	652語	ページ数	37ページ	YLレベル	2.5
あらすじ					
<p>季節は10月、農場が紅葉した木々で彩られると、お父さんは家族みんなが1年かけてつくったものを荷車に積み込みます。刈り取った羊毛、羊毛から編んだミトン、ガチョウの羽毛、ろうそく、麻布、屋根板、ほうき、じゃがいも、りんご、メープル・シュガー、蜂蜜、蕪、キャベツなどで荷車がいっぱいになると、お父さんは雄牛がひく荷車とともに、いくつもの丘を越え、ちいさな村々を通り、十日もかけて大きな町、ポーツマスに行きます。そして、マーケットで持って行ったもの「すべて」を売るのです。りんごを入れていた樽、荷車、そして荷車を引いてくれた雄牛さえもお別れのキスをして売ってしまいます。そのお金で鉄やかん、刺繍針、ナイフ、キャンディを買い求め、来た道のりをてくてく歩いて家族の待つ農場に戻ります。そして、季節はまた巡り、みんなでいろいろな物をつくるのです。</p>					
紹介					
<p>HallとCooney共作の<i>Ox-Cart Man</i>はコールデコット賞受賞作品です。Donald Hall(1928-2018)はコネティカット州生まれの詩人、作家、エディターで50以上の著作があり、Barbara Cooney(1917-2000)はニューヨーク、ブルックリン生まれのイラストレーター、絵本作家です。本作ではイラスト担当ですが、本ホームページで紹介する<i>Miss Rumphius</i>では、イラストに加えて文章も書いています。<i>Ox-Cart Man</i>、<i>Miss Rumphius</i>はともにアメリカ東海岸が舞台です。</p> <p>この絵本に描かれている美しい田園風景、農民一家の服装や生活を目にして、私はボストン生まれで、後年バーモントの田舎で生活した絵本作家Tasha Tudor(1915-2008)を思い出しました。Tasha Tudorは、何でもお金で手に入れることができるこの現代に、19世紀さながらの生活を送った人です。開拓時代から抜け出たような小花模様の長いドレスにエプロンを身につけ、季節ごとに庭で取れたベリーやりんごでジャムやお菓子をつくり、一年分のろうそくを家族総出で手づくりするなど、季節とともにある暮らしを楽しんだ人でした。広大な地所中に花々を植えるガーデンづくりに情熱を傾けていた姿が<i>Miss Rumphius</i>に似ています。</p> <p>Tasha Tudorが田舎暮らしを始めたのは1972年、David HallとBarbara Cooneyが<i>Ox-Cart Man</i>を出版したのは1979年と同時代です。工業化に対する問題が顕在化した1960</p>					

年代半ば以降、アメリカでは環境意識が高まりました。このような変化を目の当たりにし、祖父母や両親が生きた 19 世紀の暮らしを身近に知る世代の作者らが同じ頃に自然回帰志向の絵本を発売したのは偶然ではなかったかもしれません。

この絵本に描かれる、自給自足をしたアメリカの農民生活は、服装など風俗の違いこそあれ、日本の農民の暮らしと変わりありません。産業構造の変化に伴い、労働のあり方、職業選択、人々のライフスタイルはがらりと変わりました。1980 年代半ば以降、消費社会の見直しから、スローライフという価値観も生まれています。

鷺田清一著、新聞コラム「折々のことば」を紹介しましょう。

年収は増えたけど、お金がなかったころの方が楽しかったよね

岩佐^{とおる}十良

雑誌編集者は同僚らと、東京の古アパートで会社を始めた頃をふり返る中、地方への移転を決めた。日々残業し、深夜でも稼いだ金でご馳走を食べに行けるそんな生活に疑問を感じて。人は複数の時間を生きている。生き物として、家族、友人、社員、市民として。その 1 つが他の時間を犠牲にすれば元も子もない。本誌 2012 年 9 月 15 日朝刊 be「フロントランナー」から。
(朝日新聞朝刊 2020 年 1 月 4 日)

近年、岩佐氏の世代 (1967 年生まれ) より、さらに若い世代で地方移住する人々が多くなりつつあります。2017 年の国土交通省白書は、3 大都市圏在住の若者の 4 人に 1 人は、地方移住に関心を持っていると報告しています。せき立てられるように毎日を過ごす現代の人々が、この絵本に惹かれることも理解できましょう。この本を手取るだけで、ほっとします。Ox-Cart Man は美しい絵本として、ノスタルジックな絵本として、社会変化を確かめる絵本として、あるいはライフスタイルを見直す絵本として、多様な読み方ができるでしょう。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【指導のポイント】

flax, birch brooms, a barrel of apples など、使用頻度の低い語彙が数多く使われているため、以下に示すような語彙中心のアクティビティーを盛り込みましょう。読後アクティビティーとして、都会・地方での生活、伝統的・現代的な生活、家族やジェンダー役割、自然保護、環境問題、持続可能な社会等をテーマにしたディスカッションを展開することも

可能です。

【授業活用例】

Lesson 1

- ① 小グループに1冊ずつ配布する。
- ② グループごとに、絵本の1場面（1ページ）を眺める。教員が音読した語を聞いて、そのページ中に音読された語の絵を探して指で指す。新出語で推測しても分からないときには、その語を説明する。（例）An ox is an animal kept by farmers for its meat. 最終ページまで同様に繰り返す。
- ③ 反復学習として、教員あるいはペアの学生が音読した語を絵に描いて理解を確認する。

Lesson 2

- ① 小グループのメンバーで分担しながら音読する。
- ② 物語について自由に話す。
- ③ 各自、この物語に関する **comprehension questions** を数問つくる。
- ④ グループ内で互いに質問し答える。必要に応じて、絵本を参照して答えを確認する。
- ⑤ 1枚の紙に1人ずつ順番に英語で1～2文ずつ書いて、あらすじを完成させる。
- ⑥ 誰か1人が代表し、完成させたあらすじを読み上げる。適宜、絵本を参照して内容、文法、語彙、表現等を確認、修正する。

Lesson 3

- ① 絵本に出てくる収穫物の語彙（果物、野菜、モノ）を一つ選ぶ。
- ② 選んだ語のイメージ、または収穫のイメージで五行詩を書く（五行詩に関しては、本HP、アクティビティー欄「五行詩」を参照）。
- ③ 創作した詩をハガキサイズのビジュアルカードに仕上げる。詩のイメージを表現するためにフォント、カードの背景色、イラスト、写真等を工夫する。
- ④ クラス全員のカードを机に並べて鑑賞する。（ギャラリータイム）
- ⑤ 時間的余裕があれば人気投票を行う。選ばれたカードを書画カメラで見せながら、作者が詩の解説をする。

※物語の四季を思い浮かべ、好きな季節をイメージして五行詩を書くことも可能です。

【五行詩の例】



Love
Sweet, sour
Beat, pop, melt
My hear is jumping
Strawberries

関連作品・参考 URL

以下のビデオが参考になります。

- “*Ox – Cart Man* read by Donald Hall”
<https://www.youtube.com/watch?v=m4Hf89wHVRU>
- “Take Joy! The Magical World of Tasha Tudor – Trailer”
<https://www.youtube.com/watch?v=D17XAOyEBEY>

本 HP で紹介している Virginia Lee Burton 作の *The Little House* を併せて読むこともお勧めします。

(文責：草薙優加)